

# 湯かげん



◀ 市営牧場（鉾山町）と来馬岳

特

集

## ふおれすと鉾山



# 特集 ふおれすと鉱山

昨年4月、鉱山町に  
登別市ネイチャーセンター『ふおれすと鉱山』が  
オープンしました。  
山や川、森、滝など鉱山地区の豊かな自然を活用する  
『人と自然のふれあい拠点』の中核施設として整備された  
新しい施設を紹介します。



## 鉱業でにぎわった 幌別鉱山が町名の由来

『鉱山町』という町名は、その名のとおりにかつて幌別鉱山があったことに由来しています。

幌別鉱山は、明治・大正・昭和の三代にわたり金・銀・銅などが生産され、大正期の最盛時には、硫黄の精錬所をはじめ、郵便局や病院、学校、雑貨屋、映画館などが建ち並び、人口も千数百人を数える、村内で一番の活況を呈した地域だったといわれています。

しかし、時代の移り変わりとともに生産規模を縮小し続けた幌別鉱山は、昭和48年に閉山。その後人口は減り続け、現在の人口はわずか30人。往時の街並みは消え、ひっそりと静まり返っています。

このエリアが鉱業で栄えたという面影は、川原に残る鉱石や坑道口跡にわずかにとどめるにすぎません。

かつては鉱毒に汚染され、魚が絶滅の危機に瀕した幌別川にも魚影が見られるようになりました。また、鉱山の最盛期に消えた山の木々も回復し始め、現在の鉱山町は、自然と親しむのにふさわしいエリアになりました。

登別市ネイチャーセンター『ふおれすと鉱山』は、こんな場所に造られました。



▲癒やしの空間、鉾山町



## 豊かな自然の利活用を 市民の願いが結実

『ふおれすと鉾山』へは、JR幌別駅から約10分、車で約15分。市街地から手軽に行けるこのエリアには、どんな自然が息づいているのでしょうか。平成13年度から市教育委員会が行っている自然基礎調査では、次のような結果が出ています。

### ○鳥類

ウグイス、コルリ、コゲラなど合計30科88種の野鳥が確認されている。その中には、絶滅危惧種であるハヤブサやクマゲラも含まれている。

### ○ほ乳類

エゾシカやエゾリス、エゾヒグマなど5目16種が確認されている。

### ○植物

キクザキイチゲやツルアジサイなど94科42種の植物が確認されている。

春の山菜採りに始まり、夏のキャンプや川遊び、色鮮やかな紅葉、そして一面の銀世界となる冬など、鉾山町は季節を問わず多くの市民が自然とのふれあいに訪れる場となりました。ストレスの多い現代社会における癒やしの空間の一つと言えるかもしれません。

「川を再生しよう」と鉾山地区を流れる幌別川には、平成5年から市

民団体の手でヤマベの稚魚などの放流が始められ、その遡上を促すため平成13年春には、支障となる砂防ダムに市が魚道を設置し、サクラムスなどの遡上が確認されています。市民と行政が一体となった生態系再生への試みの一つです。

平成6年には、登別のまちづくりを考える市民会議から、鉾山地区の自然を利活用するよう要望が出されたのを契機に、平成8年に策定された『登別市総合計画』では、鉾山地区が『人と自然のふれあい拠点』と位置づけられ、その中核的な役割を担う施設・ネイチャーセンターの建設が主要な施策の一つとなりました。この市民の願いは、ふおれすと鉾山のオープンで結実したことになりました。

## 専門知識をもつスタッフ フガアドバイス

ふおれすと鉾山は、旧鉾山小・中学校の校舎を増改築し、面積は1千488平方メートル。ネイチャーセンターとしてはあまり大きな規模ではありませんが、「釧路湿原やウトナイ湖などにあるほかの大きな施設とは違った特徴を出したい」とふおれすと鉾山のスタッフは意欲を燃やしています。

「ここを訪れる方はこの施設のインドアよりも周辺のアウトドアが目的です。個人が自分だけで自然を楽



▲鉾山町の野生植物。上からキツリフネ、キクザキイチゲ、ツルアジサイ



▲ヨツバヒヨドリのみつを吸うオオウラギンスジヒョウモン



▲登別の夏は雨の日が多いが、自然体験学習は雨天でも行われる。市民探鳥会（右）親子エコツアー（左）

しむことはできるけれど、すべてを味わえるかという難しいと思います。そのすき間を埋めるのが僕たちの役目だと思う」とスタッフの一人は話します。

『ふおれすと鉾山』の大きな特徴は、植物や野生動物などの専門知識をもつスタッフが、利用する方の年齢や目的に合わせて、自然体験のプログラムやメニューをつくってくれていることです。

### ふおれすと鉾山の特色は 自然体験プログラム

この自然体験プログラムは『定番プログラム』と『オーダーメイドプログラム』の二つに大きく分けられます。

『定番プログラム』は、ふおれすと鉾山の施設内やその周辺で自然観察などが2時間程度で手軽に体験できるコース。『ハンズ・オン』と呼ばれる手で触って楽しめる施設内の展示物の見学をはじめ、開花情報や紅葉の見どころ、魚の遡上などその季節の新鮮な自然情報を提供し利用者へのフォローもしっかり。予約なしでも鉾山町の自然を楽しめるメニューがあります。事前に申し込みのプログラムや時間に合わせたお好みのプログラム作成も依頼できます。もしもほかに行事が入っていないければ、スタッフにツアーガイドを頼むことも

可能です。野鳥の声を聞きながら森林浴などやすらぎの時間をもつことができます。

### 体験学習は一つのドラマ 子供たちへ感動を

ふおれすと鉾山のスタッフがこだわるのは、利用者それぞれのニーズに合わせた『オーダーメイドプログラム』。そのとき、その場所、その人だけのプログラムを作ってよりインパクトのある自然体験を」との願いから作られます。

そのオーダーメイドの流れは  
①要望や目的を聞きながら、知ってほしいこと、学んでほしいことに自然の素材や季節、対象年齢や個性などさまざまな要素からプログラム作りを始める。

②物語に『起承転結』があるように、それぞれの自然体験を一つのドラマに見立て、体験したいことや学びたいこと、それを印象づけるためのしっかりとしたストーリーを作る。

### ③実施段階として

- ・コミュニケーションをとる
- ・好奇心をもたせる
- ・直接体験をさせる（プログラム本体）
- ・まとめをする

このプログラムを体験することにより、興味をもった参加者が体験を



▲マウンテンバイクの貸し出しもしている



▲植物観察に訪れた札幌の学生たち



▲川遊びに興じる児童



▲▶ふおれすと鉱山の主催で行われた子ども自然教室『幌別川と魚たち』



▲湯がこんこんと湧き出る川又温泉。ふおれすと鉱山から約4.5kmの距離



通してさまざまな驚きや喜び、学びを得て、気づいたことを参加者全員で共有することが目的です。

去年は、オープン早々にもかかわらず小学校の宿泊体験学習や団体合宿など宿泊・日帰りで18団体が利用し、そのうち95団体がオーダーメイドプログラムを体験しました。

**自然のフィールドで  
自然の仕組みを学ぶ**

それでは、自然体験プログラムの具体例を紹介しましょう。ふおれすと鉱山の主催で昨年10月に行われた子ども自然教室『幌別川と魚たち』。その主なメニューは、

- ①登別川でサケの遡上観察
- ②幌別川魚道付近で魚の生態観察
- ③サケを解体して『チャンチャン焼き』の昼食
- ④魚の回遊体験ゲーム

参加した子どもたちは、まず登別川で実際に遡上するサケを観察し、強いインパクトを感じて魚に興味をもちました。その後幌別川に戻り、実際に川の中に入って魚を観察しました。そこで、なぜ登別川にサケが遡上し、幌別川には遡上しないのかということを考えてもらいました。そして昼食時間。サケに興味をもち始めた子どもたちは、目を輝かせながらサケの解剖を見守ります。サケの内臓や卵、筋肉などをしっかりと

観察。その後チャンチャン焼きにされたサケを、子どもたちは頭や目玉からしっぽまでべろっと全部食べてしまいました。

終わりにゲーム方式でサケの回遊体験をし、身をもって魚の苦勞を知った参加者は、それぞれ深い印象をもち、たくさんのことを学びました。学校の教室では味わうことのできない教育がここで行われています。

**市民応援団が発足  
新施設の運営をサポート**

ふおれすと鉱山の運営方針の大きな特徴は『市民・NPO（特定非営利活動法人）・行政のコラボレーション』。一方が他方の上や下にいるという関係ではなく、三者が丸く輪を作って『協働作業』をしながら運営していくというものです。

自然体験プログラムの作成など運営のノウハウを札幌市のNPO『ねおす』に業務委託。その知恵や人材を活用しています。

また、9月には『ふおれすと鉱山支援ボランティア組織（通称：モモンガくらぶ）』が発足しました。このモモンガくらぶには、小学生から80歳近くの方まで各団体の有志を中心に、市民51人が参加しています。

会員の中には、鳥や魚、植物などそれぞれの分野に詳しい方がいて、展示物を作ったり、動植物の調査を



▲心を和ませる鉱山町の冬景色



▲展示物は自由にさわれる『ハンズオン』



▲クマガワの生態をわかりやすく説明するスタッフ



▲冬まつりで人気を集めたポニーの乗馬体験

するなど、経験に裏づけされた知識や情報の支援、そして時には施設内や周辺の整備、工作用の落ち葉拾いに至るまでふおれすと鉱山の運営をしっかりとバックアップしています。

### 俳優などを講師に招き

### 指導者もステツプアップ

自然そのものを教材に、直接的な体験を重視した質の高い『自然体験プログラム』の提供を、時には試行錯誤しながら努めたスタッフたち。オープンから1



年近くが経過し、さらなるレベルアップへの努力がすでに始まっています。それが昨年8月から開かれている『指導者ステツプアップ講習会』。

この講習会は、市内の教育関係者や自然教育に興味をもつ方、モモンガくらすの会員などを対象に行っており、単に知識を得る講習会ではなく指導者としての物の見方を養ったり、伝え方を身につけるのが目的です。また、この講習会開催のねらいには、将来的に地域全体で子どもたちを育てるといふ、新しい教育システムづくりへとつながるようお願いが

込められています。

魚の専門家やネイチャークラフト作家などを招き、自然体験学習などの指導をする際の参考にしようとする心に取り組んでいます。特筆すべきは1月に開かれた講習『子どものためのインタープリテーション』。これは俳優を講師に招き、言葉をはじめ、まゆ毛や目などの表情筋をフルに使っての表現、絵やゼスチャーで伝えるテクニクなどを楽しく学びました。表情や動作は、メッセージを伝える上で重要と考え、自らをレベルアップしたいというスタッフの熱意や向上心が伝わってくる講習会メニューです。

俳優から観客をひきつけるプロの演技の極意を学んだスタッフたち。きつと2シーズン目を迎える今季の

自然体験学習などに生かされることでしょう。参加者の反応が今から楽しみです。

### 『永遠に未完成』が

### 施設運営のテーマ

昨年4月のオープンから今年の2月末まで約10カ月のふおれすと鉱山の利用者は約1万5千人。アクセスに公共交通機関がないにもかかわらず、予想を上回る多くの方が利用し

# ●ふおれすと鉱山周辺マップ



## お問い合わせ

## ふおれすと鉱山

- 場 所 登別市鉱山町 8 番地
- 休館日 毎週月曜日、年末年始
- TEL (0143) 85-2569
- FAX (0143) 81-5808
- E-mail : kozan@pluto.plala.or.jp
- ホームページ <http://www.city.noboribetsu.hokkaido.jp/forest/forest%20top.htm>



ました。

施設は、建物だけができて、その運営に心が込められていなければ、永続的な活用は望めません。また、公共施設が展示物だけで興味を引きつける時代はもう終わったのだと思います。スタッフの熱意、それを支える市民サポーター、そして再生しつつある鉱山町の自然。

一度つくったプログラムに固執するのではなく、「事業やプログラムなど行なったことを常に評価し、じっくり検討しながら次の活動に活かしていきたい」とスタッフ。

ふおれすと鉱山の運営テーマは『永遠の未完成』です。利用者の要望に敏感に対応し、ニーズに合わせてさらに使いやすく、柔軟にかたちを変えていく運営を目指しています。

かつては鉱物を産出し、多くの富をもたらした鉱山町。今、多くの市



▲ふおれすと鉱山のスタッフ

民の手で鉱山町のもう一つの宝物とも言えるその豊かで貴重な自然が再生・活用されようとしています。

人と自然のふれあい拠点として造られたふおれすと鉱山。『人と自然のより良い関係づくり』という新しい試みがスタートしました。

# まちのうごき@のぼりべつ

## 登別温泉が日本の温泉のトップに!

〜トップ2の温泉100選〜

昨年12月に発表された『第16回につぼんの温泉100選』（観光経済新聞社主催）で、登別温泉が全国1位に選ばれました。この100選は、全国の旅行者や運輸機関の旅行担当者の投票で選考されるもので、登別温泉のこれまでの最高位は2位（前回は3位）でしたが、今回の選考では交通アクセスの良さや泉質、温泉情緒などが高く評価され、晴れて1位になったものです。

登別温泉は、景気低迷のおおりに受け、平成14年度上期（4月〜9月）の観光客入り込みが、対前年同期を0.8割下回るなど苦戦を強いられています。登別観光協会は、全国放送された連続テレビドラマ『はるちゃん6』のロケを誘致するなど、積極的な宣伝活動を続けています。

▼登別温泉街



## 火葬場建替工事着工 環境に配慮した新火葬場に



▲新火葬場の完成予想図



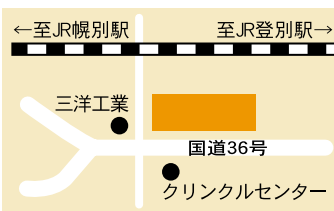
平成14年12月5日(木)、新火葬場の建設工事に着手しました。

この新火葬場は、昭和48年に供用開始した現火葬場の老朽化に伴い、富浦町186番地に総事業費約11億円をかけて建設するもので、敷地面積は現火葬場の約3倍の3万1千159平方メートル、床面積は同じく4倍の1千697平方メートルで鉄筋コンクリート造り一部2階建て。火葬炉は現在と同じく3基設けますが、ダイオキシンの発生量を国の基準の十分の一に抑える集塵装置を付け、環境に配慮した設計となっており、供用開始は16年4月を予定しています。

## 新市民プール建設へ 『健康創造文化』の拠点

新市民プールが、平成15、16年度の2カ年度で、クリンクルセンター向かいの幸町1丁目目に新設されます。

現市民プールの老朽化により総事業費約15億円をかけて建て替えられるもので、鉄筋コンクリート造りの一部木造2階建て。25メートル×7コースの公認プールのほか、水中ウォーキングができる流水プール、水深を調節できる多目的プールなどを備えます。水の効能を最大限に生かした登別にふさわしい『健康創造文化』の拠点施設として16年5月のオープンを目指しています。



▲新市民プールの完成予想図